

# 沖繩闘争勝利

## 70年安保粉碎・佐藤内閣打倒のため

# ① 全国反戦再崩 ② 反戦委解体策動阻止

# ③ 11月佐藤訪米阻止セネストを要求する!!

### 反戦委圧殺の主犯はだれか!

戦闘的・大衆的労働運動の主体形成を一方の軸に、ベトナム反戦・七〇年安保・沖繩闘争を政治闘争の前面に押し出し、第三期反戦青年委員会運動を職場・生産点において実現すべく闘い抜いている青年労働者諸君!! 七〇年安保・沖繩闘争は、二・四セネストの挫折をのりこぎて闘う沖繩労働者・人民の「安保院棄、軍事基地撤去」闘争を中心として、四月沖繩闘争を突破し、再び巨大な前進を開始し、米軍事権力支配の鋭い対決を通して六月ストライキ闘争を爆発させた。

本土においても、四月沖繩闘争を反戦派労働者の力によって、総評一部指導部、共産党の反戦委解体と排除の策動をのりこぎつつ、各県反戦委主催による四・二〇反戦・反安保・沖繩闘争勝利闘争を圧倒的に成功させ、それを大衆の基礎に五月野田米阻止、六月アスバック粉砕闘争、六・一五闘争が連続した実力闘争として闘い抜かれたことにより、七〇年闘争は飛躍的に高揚しつつある。

しかしながら帝国主義的政治体制再編の真の只中において、七〇年安保・沖繩闘争が激烈になるにつれてつぎのことが誰の目にも明らかになりつつある。それは、①ブルジョア権力の反戦派労働者への狂暴な弾圧と抑圧の総評(太田派・J.C派)の全国反戦の凍結と解体路線②日共の反戦委に対する反トロキヤン・キャンペーンの強化と分断、排除攻撃によって反戦派労働者のペースが進行している。こうしたブルジョア権力・総評(太田派・J.C派)日共の三位一体となった包囲にもかかわらず、反戦委運動が青年労働者、学生、職闘的・大衆的結集体として、また労働者・学生・市民・農民等の共同行動を保障していく場として現実に存在しており、ますます高揚した闘争をつくりだしている。

われわれ反戦派労働者が、全国反戦委、各県反戦委運動を通して獲得してきた六七年・六九年の闘争の教訓は、政治路線のみならず、同時に労働戦線の分野においても、職場・生産点に押しよせる帝国主義的産業再編合理化の具体的な攻撃に対決し、労働運動の右翼化に対し、資本と権力の中で最も本質的な闘いを追求してきたということであった。

総評労働運動の形骸化が「右」からの介入によって深刻化し、また日共政治路線のセクト主義に利用されている現在、反戦青年委員会問題、は、七〇年闘争と七〇年代闘争における労働運動の針路に直接かかわる決定的な問題点をつきつけている。

### 総評青対部を告発する!

青年労働者は、この間「深刻な労働運動」の現状をふまえて、全国反戦委の凍結と、太田派・日共・J.C派の反戦委解体策動に対し、大衆運動をもって対決し、告発し、批判を展開し、解体作業とめつけを阻止してきた。

総評青対部指導部は、六八年四・二二反戦行動を最後に、全国反戦委の中央指導部を社青同中央と一体となつて放棄し、凍結し、それ以後、先鋭化する権力との闘いの過程で大衆運動をサボタージュし、セクト主義と右翼的勢力のそでにかくれ、反戦委運動の上からの解体、反安保青年組織への再編など、青年労働戦線の政治的分裂行動を「運動的」に「組織的」に対置してきた。その結果として、「青年問題の本質」をえぐり出す現状認識を、主観的・政治的に曲し、労働運動現指導部と青年労働者の関係をますます疎遠なものにしてきた。そのことが若井総評事務局長を委員長とする総評の青年問題委員会を複雑化させ、青年労働者大衆の運動とは無縁な場において、特定の政治的意図を調整する場にした大きな要因であった。総評青対部のこのセクト主義、日和見の指導と分裂行動は、多くの青年労働者・活動家が、権力・資本との苦しい闘いの実践と教訓を通し、闘い抜いているまただ中において行なわれてきたところである。その生き生きとした告発と批判そのものは総評の内外にわたって追求された大衆運動、青年労働者、学生、市民の共同行動職場の闘い、無数の討論集会、交流会等を通して強化した。にもかかわらず、総評青対部は、組織技術上の処理や、官僚的しめつけ、手続主義等によってお茶をにごし、反戦委に結果せんとする青年労働者の大衆的・戦闘的力を排除し、拡散させようとしてこころみしてきた。

### 総評指導部の責任を問う!

労働運動の高揚を端的に表現している反戦委運動の前進に対し、総評青対部の分裂行動とセクト主義・日和見の指導に対する「責任」は、総評指導部そのものが、七〇年闘争過程において「何が現在労働運動の深部でおこりつつあるのか」をはつきりと認識することによってなければならない。

総評指導部が責任を負うということは、以下の三点を履行し、展望することである。

- (一) 全国反戦委員会を即時無条件全面再開すること
- (二) 反戦委解体一別組織作りをただちに停止すること
- (三) その組織的保証の下に、七〇年反安保、沖繩闘争、十一月佐藤訪米阻止の

大決戦にむけセネスト体制を口先だけでなく、全力をもって準備すること

われわれは総評幹事会の場においても、全国反戦委凍結については必ずしも一致していないし、また社会党においても、はつきりと全国反戦委運動の評価の上で強化方針を再確認している現在、この三点のスローガンは、労働者総体の闘争要求の最も大衆的な確認であると思える。

### 青年労働者の諸君!

七〇年反安保・沖繩闘争が、沖繩現地の鋭いしかも圧倒的な大衆の憤激を基礎として、軍事権力に向けた「実力闘争」として展開されつつある時、六九年(秋)十一月佐藤訪米阻止闘争は国際反戦行動の一環としての反安保・沖繩闘争の頂点に位置づけられなければならない。

沖繩本土を結ぶ七〇年安保・沖繩闘争の主体の質は「大衆的実力闘争」として結合されなければならないし、またそのこと以外に勝利の展望は約束されていないのだ。

六七年・六九年のベトナム反戦闘争を闘いぬき、七〇年安保・沖繩闘争の課題に鋭く迫ってきたわれわれは、反戦青年委員会運動に凝集された「自立・創意・統一」の教訓化された質をもった唯一の「実力闘争部隊」としてつぎにさげなければならない。ただちに職場大衆討論を組織し、総評定期大会にむけ「全国反戦即時無条件全面再開」「反戦青年委員会運動解体と青年労働者の別組織化阻止」「十一月佐藤訪米にセネストを、の三つのスローガンのもとに、一大抗議行動を準備せよ!

### 青年労働者の諸君!

ただちに、三つのスローガンの意義を大衆討論にかけ、思想的に深め一部総評指導部の反戦凍結、解体方針に対し抗議行動に決起せよ!

結集日時 七月二十日 午前十時  
場 所 文京公会堂前広場

よびかけ団体

●国鉄労働組合東京地本青年部

●東京水道労働組合青年部

●東京交通労働組合青年部